放課後学習教室
～CS委員の提案で開始した「ドッピー教室」～

学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数（赤字は内学校運営協議会委員数）			地域学校協働本部
板橋区立 前野小学校	前野小学校コミュニティ・スクール委員会	地域学校協働活動推進員	3 名	3 名	前野小学校支援地域本部
	令和2年4月1日 設置	地域コーディネーター	0 名	0 名	

取組の背景及び目標や目指す姿

背景

前野小学校では、「学力向上」が課題の一つとなっている。
授業だけでは学力が定着しづらい児童に対して、個別でサポートすることが必要と感じているが、教員だけで放課後にサポートを行うには限界があった。また、放課後に個別指導を行うと、児童の下校時刻がバラバラになってしまい、下校面の不安もあった。

目標や目指す姿（学校）

確かな学力を育成し、誰一人取り残さないための居場所づくりを行い、「思いやりのある子」を育てる

目標や目指す姿（地域）

子どもたちのより豊かな学びの実現のために、
地域一体となって子どもたちを育む

前野小学校コミュニティ・スクール委員会　の特徴

委員の立場や属性等

- ☐ 保護者
- ☐ 区立施設長
- ☐ 地域住民
- ☐ 校長・副校長
- ☐ 地域学校協働活動推進員
- ☐ 学識経験者（大学教授）　など、計 15 名で構成
- ☐ 学童クラブ職員　年間平均 5 回程度開催

効果的な運営の工夫

学校の現状を包み隠さず伝えることで、熟議に深みや幅が生まれ、委員から活発な意見が出るようになる。また、委員会前に校長・委員長が議題について協議し、委員長が学校の現状を深く理解したうえで委員会の進行役を務めているため、議論がまとまりやすい。さらに、学校管理職抜きで教員の生の声を聴き、そこから地域ができることを考えるために、委員長・副委員長と教員のグループ面談を実施、今後さらに熟議が深まることが期待される。

特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

上記の課題について、教員だけでは対応しきれない部分を、地域が関わって支援していく必要があるとの熟議がなされた。そして、委員から「学習を定着させるサポートの場となる放課後学習教室を始めないか」との提案があり、全会一致で実施が決定し、前野小学校60周年記念キャラクター「ドッピー」にちなみ、「ドッピー教室」と名付けた。

熟議の様子

地域学校協働活動

児童２人に対し、大人１人を配置できるよう、学校支援地域本部でボランティアを募り、15名ほどのボランティアの配置調整を行っている。また、終了後は参加したボランティア間や学校間で情報交換会を行い、児童の様子や児童への教え方を共有し、次回につなげられるようにしている。

ドッピー教室の様子

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

地域学校協働活動推進員3名全員が、コミュニティ・スクール委員会の委員となっているため、委員会で決定された内容を、学校支援地域本部で素早く実行に移すことができた。また、様々な立場の委員のつながりも活用し、多くのボランティアを募ることができた。他校で放課後学習教室を運営した経験のあるボランティアもおり、ノウハウを聞きながら実施できている。学童クラブ職員である委員との調整により、児童が一旦学童クラブに荷物を置いてから「ドッピー教室」に参加できる体制としたことで、下校面の不安も軽減された。
さらに、コミュニティ・スクール委員会で「ドッピー教室」についての成果報告を定期的に行い、児童の様子や課題を共有している。

成果・効果

◆令和2年7月から地域主体で「ドッピー教室」を開始し、2年以上続いている取組である。子どもとのふれあいを通じて垣間見られる子どもたちの家庭環境などにも配慮しつつ、地域の方々が暖かい目で見守るという体制は、子どもたちにとって大切な「居場所」のひとつになっている。
◆毎回、「ドッピー教室」の終了時間になると、児童からは「もっとやりたい」「もう終わり？」という声が上がるなど、児童の学習意欲向上につながっている。
◆地域のボランティアにとっても、継続的に児童とふれあうことで関係性が構築され、「地域の子どもは地域で育てる」という意識がめばえている。「ドッピー教室」の運営を通して、地域住民同士の交流が増え、地域コミュニティの活性化にもつながっている。
◆板橋区コミュニティ・スクール（iCS）を地域に定着させるための取組として、校内に「iCSコーナー」を設け、児童や保護者、教員にコミュニティ・スクール委員会の様子や学校支援地域本部の活動が浸透するようにしている。
◆この取組を通じて、コミュニティ・スクール委員会が一体となり、学校のめざす教育目標を共有しているため、さらなる次の新たな取組に向けた検討が始まっている。